

# 育成ドラフト巨人2位指名



Giants  
はやし きら  
012

Hayashi Kira  
はやし きら

- ◆生年月日：2003年4月22日（22歳）
- ◆身長体重：183cm 85kg
- ◆野球の原点：5歳上の兄の影響
- ◆プレースタイル：最速152km/hの直球が武器。  
中継ぎ・抑えを担う。
- ◆出身校・チーム  
祝梅小・北陽小／千歳ブラックバード少年団  
※小6で日本ハムファイターズジュニアに選出。  
→ 勇舞中／千歳リトルシニア球団  
→ 広陵高校（広島県）  
→ 立正大学（埼玉県）  
→ 読売ジャイアンツ

2025年プロ野球ドラフト会議。読売ジャイアンツから育成2位指名を受けたのは、千歳市出身の林燐選手です。183センチ、85キロの恵まれた体格から繰り出される最速152キロのストレートは庄巻。平成30年2月号の広報ちとせで紹介したあの少年が、今、プロ野球選手として故郷に凱旋しました。夢の切符を掴んだ今の胸の内を伺いました。

— ドラフト指名を受けた時の状況と、素直な気持ちを教えてください。

当日は大学の試合が終わり、バスで寮に帰っている最中でした。支配下指名では呼ばれず、不安を抱えたまま寮に到着したのを覚えていました。その後は一人で見るのは心細かったので、高校時代からの親友と二人で見ていました。

— ドラフト指名を受けた時の状況と、素直な気持ちを教えてください。

当日は大学の試合が終わり、バスで寮に帰っている最中でした。支配下指名では呼ばれず、不安を抱えたまま寮に到着したのを覚えていました。その後は一人で見るのは心細かったので、高校時代からの親友と二人で見ていました。

秋リーグ戦は納得のいく結果が出せず、正直なところ不安が大きかったです。「育成2位・林燐」と名前が出た瞬間、親友と飛び跳ねて抱き合い喜びを爆発させました。廊下が騒がしくなつて外に出ると、野球部だけではなく、同じ寮に生活しているラグビー部の仲間も自分のことのように喜んでくれていて、みんなで喜びを分かち合いました。

— プロ野球選手になる実感はありますか。

幼い頃から目標にしていた場所なので素直に嬉しいです。ただ、プロになることがゴールではありません。ここで満足せず、一番の選手になるために、ここからもっと練習して多くのことを学んで、これからやっていきたいと思います。

— 目標としている選手はいますか。

上手くなりたいなら、誰よりも努力すること。そして、周りと自分を比べすぎないことです。自分に足りない部分やコンプレックスがあったとしても、それを気にする必要はありません。自分の「これだけは負けない」というこだわりを何か一つでも持ち、自分を信じて突き進んでほしいと思います。

— 最後に市民の皆さんへメッセージをお願いします。

これからはプロの世界に身を投じます。まずは、1日でも早く支配下登録選手を勝ち取ること。そして、千歳を代表するような「最高のピッチャー」になります。これからも熱い応援をよろしくお願いします！



2018年2月号取材時の  
林燐選手(当時中2)

結果を左右するのは「準備」。  
自分を信じて、誰よりも努力する。



高校の先輩で読売ジャイアンツの野球人としては大谷翔平選手に憧れます。何より野球を心から楽しんでプレーしている姿が印象的で、自分も大谷選手のように、野球を楽しみ、愛される選手になりたいです。

— プロの世界で通用する「自分の武器」は何だと思いますか。

一番はやはりストレートです。自信を持っていますが、まだ進化できる確信もあります。ファンの皆さんには、特にストレートに注目していただきたいです。

— 野球を続ける上で、大切にしている教えはありますか。

「準備」ですね。小学生の頃に教わったことですが、今でも大切にしています。結果の良し悪しは、そこに至るまでの準備で決まる。技術面や練習はもちろん、心の持ちようも含め

ます。結果の良し悪しは、そこに至るまでの準備で決まる。技術面や練習はもちろん、心の持ちようも含めます。結果の良し悪しは、そこに至るまでの準備で決まる。技術面や練習はもちろん、心の持ちようも含めます。結果の良し悪しは、そこに至るまでの準備で決まる。技術面や練習はもちろん、心の持ちようも含めます。結果の良し悪しは、そこに至るまでの準備で決まる。技術面や練習はもちろん、心の持ちようも含めます。結果の良し悪しは、そこに至るまでの準備で決まる。技術面や練習はもちろん、心の持ちようも含めます。結果の良し悪しは、そこに至るまでの準備で決まる。技術面や練習はもちろん、心の持ちようも含めます。結果の良し悪しは、そこに至るまでの準備で決まる。技術面や練習

— これまでの野球人生で転機となる出来事はありますか。

大学1年生の夏です。当時はずっと「プロになりたい」と口では言つていましたが、数字も結果も伴つていませんでした。その時、ドラフト会議と一緒に見ていた親友から「ホンマにその練習でプロになれるの？」と厳しく指摘されたんです。

その言葉で目が覚めました。それまで甘えを捨て、自主練習やウーリトトレーニングなど全てを見直しました。あの時、彼が本音でぶつかったと言葉で目が覚めました。それまで甘えを捨て、自主練習やウーリトトレーニングなど全てを見直しました。あの時、彼が本音でぶつかったと思いません。

— 千歳の野球少年へアドバイスをお願いします。

上手くなりたいなら、誰よりも努力すること。そして、周りと自分を比べすぎないことです。自分に足りない部分やコンプレックスがあったとしても、それを気にする必要はありません。自分の「これだけは負けない」というこだわりを何か一つでも持ち、自分を信じて突き進んでほしいと思います。

— 最後に市民の皆さんへメッセージをお願いします。

これからはプロの世界に身を投じます。まずは、1日でも早く支配下登録選手を勝ち取ること。そして、千歳を代表するような「最高のピッチャー」になります。これからも熱い応援をよろしくお願いします！